第 11 号
2014 年(平成 26 年)
11 月 20 日(木)

広報委員長	内山英行
広報委員	西山哲雄　木下　豊
	花村一三　坂原広重　小山洋史
	高野　薫　吉田健二　渡辺　昇

小布施 まちづくりボイス

E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp　HP: http://www.town.obuse.nagano.jp/

発　行: 小布施まちづくり委員会
会　長: 内山英行
事務局: 小布施町役場
定住交流グループ
Tel: 026-214-9102
編　集: 小布施まちづくり委員会
広報委員会
2008 年(平成 20 年)12 月 18 日創刊
2014 年(平成 26 年)11 月 20 日第 11 号
©小布施まちづくり委員会

新たなテーマで委員会の更なる活性化を

小布施まちづくり委員会会長　内山英行

発足後7年目を迎えた「まちづくり委員会」の中で、現在活動中の５つの部会は大変活発に活動しています。昨年度に続いて今年５月には、共育を考える部会による「コミュニティースクール検討準備委員会設立の提案」が行政に取り上げられました。これを受け、既に「検討準備委員会」が設立され、10 月 27 日（月）、第一回の準備委員会が開催されました。

今年５月に発表された「日本創成会議」による「消滅可能性のある自治体名公表」は全国自治体に大きな衝撃を与え、久しく警鐘が鳴らされてきた少子高齢化対策が「待ったなし」の段階に入りました。年間１００万人の観光客が来訪される小布施町もその例外とはなり得ませんでした。近隣市町村との共存を図りつつも、当町の人口減少対策を講じていくことこそが、今後、私ども地元住民の最大課題となりましょう。

過日、まちづくり委員会の運営委員会で市村町長と懇談する機会がありました。その席上、市村町長から「定住促進」と「自然エネルギー活用」という新たな宿題をいただきました。これを受け、部会単位での協議がすでに始まり、６か月後を目処に、新しい部会設立を含めた方向性を打ち出していきます。同時に、新たな課題を含めて、当委員会に強い関心を抱いておられる住民皆様の参加を呼び掛けてまいります。

10 月１日（水）に開催されたまちづくり委員会全体会の席でも人口減少問題が取り上げられ、多くの議論の中から当委員会としての新たな一歩を示唆する提案もありました。現在実施中の「町政懇談会」でも課題とされている「10～20 年後の小布施町」を、当委員会の立場からも衆知を集めて議論を深めていきたく考えています。

今年は「町制 60 周年」という記念すべき年です。11 月１日には「記念式典」が、11 月 30 日には小布施町初の「おぶせ能」が開催されるほか、既に幾多のイベントが実施されてきました。当委員会にあっても、既存部会の活動を基本に据え、ここに「コミュニティースクール」、「定住促進」そして「自然エネルギー問題」を新たな起爆剤として加え、記念すべき年の活動に弾みをつけてまいります。既存会員と新しく参加される会員の皆様と一緒に、当委員会の体力増強を図りたく、新たなテーマにもご関心をお持ちの、小布施町在住の、そして近隣市町村にお住まいの皆さまの積極的ご参加をお待ちしています。

あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか！

小布施まちづくり委員会は、様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として平成 20 年にスタートしました。現在４期目を迎え、「安全」「環境」「福祉」「交流」「共育」の５つのテーマごとに部会を設け、月に１回くらいのペースで集まって活動しています。

そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。小布施のまちづくりに参画しようとする 16 歳以上の人なら、誰でも委員になれます。(町外の人は町民３人以上の推薦が必要です。)

参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。

小布施まちづくり委員会事務局（小布施町役場定住交流グループ内）
Tel:026-214-9102／Fax:026-247-3113／E-mail:kouryuu@town.obuse.nagano.jp

子どもたちは地域で育てる

共育を考える部会長　高野　薫

第３回小布施未来共育会議を９月 13 日に開催しました。「みんなで育てよう小布施っ子」と題し、小岩井彰先生（現上田北小学校長、元青木村教育長、地球クラブ代表）を講師にお迎えしお話を伺いました。地域の子どもを育てるために地域の大人ができることを考える良い機会になりました。

小岩井先生によると、今の日本の現状は 15 才から 34 才までのニート 54 万人。15 才から 39 才までの引きこもり 70 万人、予備軍は１５５万人。20 才から 59 才までの孤立無業者（SNEP）１６０万人以上。16 才から 19 才の男性でセックスに「感心無い」「嫌悪している」39％。若者の３年以内離職率中卒７割、高卒５割、大卒３割。自分以外の人間に関心を持たず関わりを避ける「人間嫌い」になる事態が進んでいて、社会の形成者としてより良い社会を作る意欲に欠ける「人との関わり不足」がどんどん進行しているそうです。

子どもたちが未来で遭遇することになるであろう数々の問題。格差拡大や紛争問題、世界人口増に伴う資源、食料、水不足、環境汚染などがグローバル化し、より困難な問題が子どもたちにのしかかってきます。

そんな中で、「人とつながって新しい社会を構築する力」「小布施の人や自然を愛し小布施を作っていく力」「多様な他者と直に相互に行為する力」をどう育てていくかが重要で、一人の子どもを育てるには村一つが必要であるとのご示唆をいただきました。

また、外遊び（実体験）こそ生きる力の源で、遊び場を地域の大人がどう確保するか、多様な大人が子どもと接する場をいかに作るかがポイントとなるとも話され、小岩井先生のお話はコミュニティースクールを実現させようとしている小布施町にとって有益であったと思います。

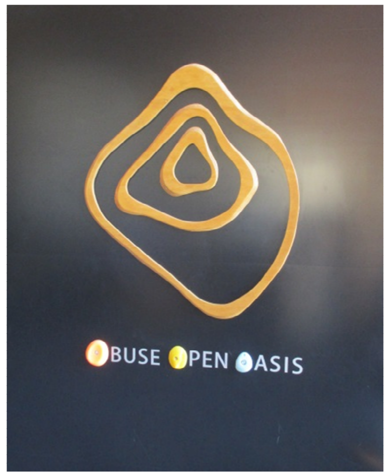
未来の小布施(世の中)のために、今、地域の大人ができることを一緒に考えていきましょう。小布施っ子を地域のみんなで育てていくことが、未来の小布施につながると思います。

ボルダリング施設への再生

千曲川ハイウエイミュージアムの有効活用を考える部会長　小山洋史

ボルダリング、やってきました！素敵な女性スタッフに迎えられ、ベテランのインストラクターの指導により初めてのボルダリング。

単なる壁登りとは違いますね。なかなか頭と体を使います。筋肉の使い方としてはアイソメトリック（等長性運動）になりますので、脂肪の燃焼効率が良いからメタボの人には良いかもしれません。結構、家族連れの方が見えていました。まだ室内２部屋のみですが、おいおい拡張していくそうです。

ただ、残念なことは周辺の環境整備。看板から導線、中庭に至るまで周囲の環境が古いまま、草が生えたままなので、外見だけでは何の施設かわかりません。オーナーにお聞きすれば町と検討中ということでした。でも、古くともできることはあろうかと思いました。いずれにしてもあの場所は年間 40 万人も訪れるところであり、いろいろな可能性を秘めています。是非とも早く整備し、たくさんの人に喜んでいただく場になることを希望します。それまで温かく見守りましょう。

過日のまちづくり委員会全体会で、この部会はこれをもって解消ということが了承されました。まちづくり委員会発足当初より、たくさんの皆さんにいろいろなご意見を頂戴いたしました。さらに、自ら企画展を開き実証実験まで行ってきた中で民間委託という結論を出し、今日の結果に至ったわけです。今まで関わっていただいたすべての皆さんに、この場をお借りして改めて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。